

米軍基地環境カルテ

ホワイト・ビーチ地区（施設番号：FAC6048）

沖 縄 県

改訂履歴

版数	発行年月	改訂内容
第1版	平成29年3月	初版発行
第2版	令和4年3月	「沖縄の米軍基地（平成30年12月沖縄県）」の内容を反映させた改訂。
第3版	令和8年3月	「沖縄の米軍基地（令和6年3月沖縄県）」、「環境白書（平成27年度報告～令和5年度報告沖縄県）」及び「ホワイト・ビーチ地区艦船し尿処理施設建設事業 事後調査報告書（令和7年3月）」を反映させた改訂。

年月日	頁	該当箇所	追補・変更内容
令和2年 3月20日	46-11	46.6 その他情報	表 46-2、年月日『1958年』の項目の次に沖縄県が米国立公文書記録管理局(NARA)で収集した『1967年5月18日』、『1967年5月29日』及び『1968年6月13日』の項目を追加 『1969年7月21日～7月28日』の項目の次に沖縄県が米国立公文書記録管理局(NARA)で収集した『1972年7月』の項目を追加
令和3年 3月30日	46-11	46.6 その他情報	表 46-2、年月日『1972年7月』の項目の次に沖縄県がネイビーヤード図書館で収集した『-』の項目を追加

目次

46. ホワイト・ビーチ地区（施設番号：FAC6048）	46-1
46.1 基本情報	46-1
46.1.1 名称	46-1
46.1.2 所在地、広さ（施設面積）	46-1
46.1.3 施設の概要等	46-2
46.1.4 施設の管理及び用途	46-3
46.1.5 施設・区域の返還時期（見込み）、返還後の利用状況	46-3
46.1.6 土地利用規制図	46-3
46.2 基地内の環境汚染の可能性に関する情報	46-3
46.2.1 基地等の土地の状況	46-3
46.2.1.1 地形分類図	46-3
46.2.1.2 表層地質図	46-4
46.2.1.3 土壌図	46-4
46.2.1.4 切盛土分布図	46-4
46.2.2 基地内の施設の使用状況	46-4
46.2.2.1 施設配置図（埋設物含む）	46-4
46.2.2.2 施設等使用履歴	46-5
46.3 基地等の環境状況	46-6
46.3.1 自然環境（植物）	46-6
46.3.1.1 現存植生図	46-6
46.3.1.2 植生自然度図	46-6
46.3.1.3 特定植物群落	46-6
46.3.1.4 重要な種、貴重な種等	46-6
46.3.2 自然環境（動物）	46-6
46.3.2.1 重要な種、貴重な種等	46-6
46.3.3 水利用状況	46-7
46.3.3.1 水利用状況	46-7
46.3.3.2 井戸・湧水の分布状況	46-8
46.3.3.3 河川及びダムの分布状況	46-9
46.3.4 地下水の状況	46-9
46.3.4.1 地下水基盤面等高線図	46-9
46.4 当該施設及び周辺における環境関連事故等	46-9
46.4.1 事故等の概要	46-9
46.4.2 事故等発生場所	46-10
46.5 環境調査を実施する場合の留意事項	46-10
46.6 その他情報	46-11

46.7 環境等に関する通常監視について	46-11
----------------------------	-------

46. ホワイト・ビーチ地区（施設番号：FAC6048）

46.1 基本情報

46.1.1 名称

ホワイト・ビーチ地区（施設番号：FAC6048）

46.1.2 所在地、広さ（施設面積）

<昭和47年5月15日>

所在地：勝連村字平敷屋、字内間、字平安名、与那城村字饒辺

広 さ：約1,884千㎡

出典：外務省ホームページ「沖縄の施設・区域（5・15メモ等）（仮訳）」（1972年5月）

(http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/usa/sfa/kyoutei/pdfs/02_03.pdf) を参照

<令和6年3月現在>

所在地：うるま市（勝連平敷屋）

広 さ：1,568千㎡

地主数：1,913人

駐留軍従業員数：104人

出典：「沖縄の米軍基地」（令和6年3月、沖縄県知事公室基地対策課）から引用

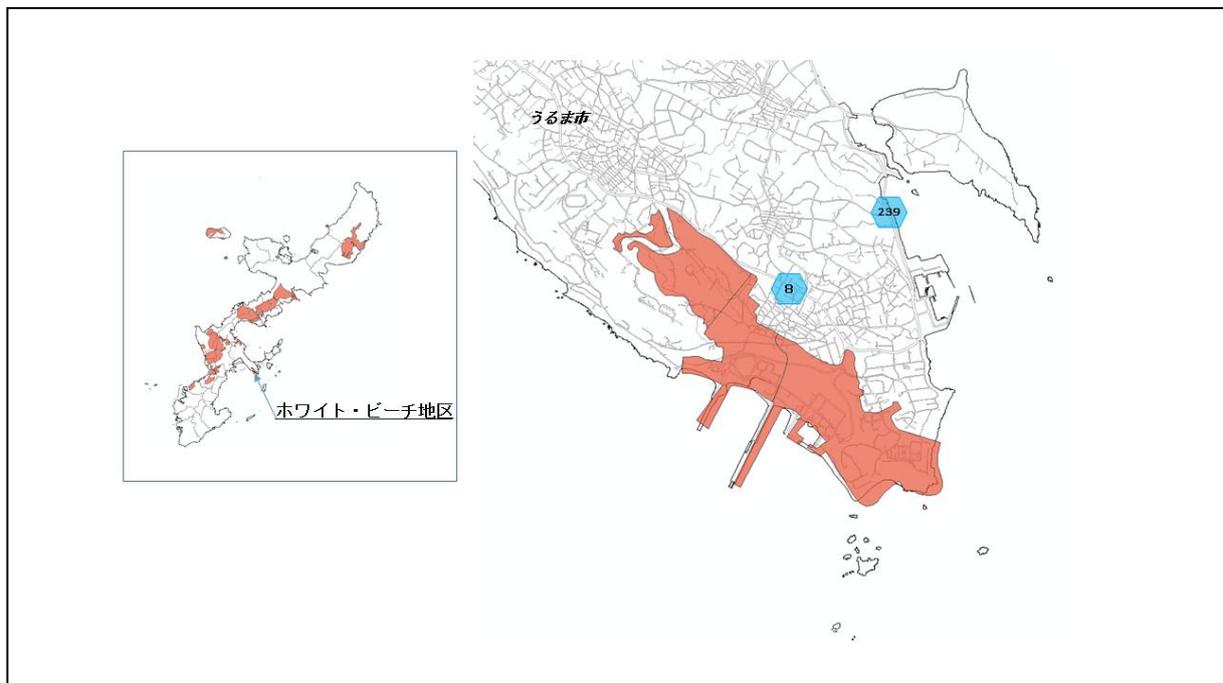


図 46-1 ホワイト・ビーチ地区の位置図（平成28年時）

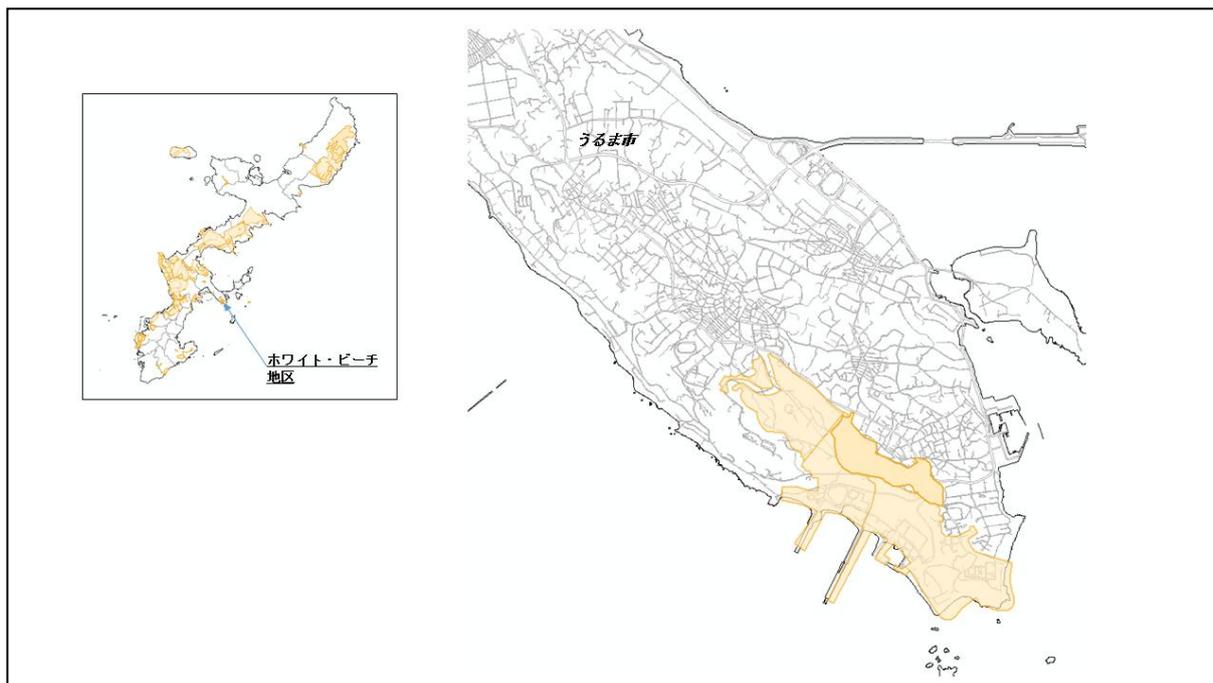


図 46-2 ホワイト・ビーチ地区の位置図（昭和 47 年時）



出典：「沖縄の米軍基地」（平成 25 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）から引用

図 46-3 ホワイト・ビーチ地区の航空写真

46.1.3 施設の概要等

勝連半島の先端部に位置するこの施設は、海軍管理の港湾地区と陸軍管理のタンク地区に区別される。港湾地区には、幅 24 メートル、長さ 850 メートルの米海軍 A 栈橋、幅 24 メートル、長さ 450 メートルの米陸軍 B 栈橋の 2 つの栈橋がある。タンク地区には、提供施設整備により、昭和 60 年度に 2 基のタンクが完成している。

本施設は、在沖米海兵隊員の沖縄からの出入及びホテル・ホテル訓練区域、インディア・イン

ディア訓練区域、マイク・マイク訓練区域等の水域及び空域での演習訓練の際の兵員の輸送、武器・弾薬等軍需物資の補給基地として常時活発に活用され、米軍の沖縄における重要な軍港としての機能を果たしている。

寄港艦船の主なもの、強襲揚陸艦、ドック型輸送揚陸艦、原子力潜水艦、輸送艦、タンカー等である。沖縄に駐留する第3海兵遠征軍の輸送を任務とし、長崎県佐世保基地に配備されているボノム・リシャール（ワズブに交代予定）やグリーンベイ等もしばしば寄港する。

また、この施設は国連軍地位協定第5条第2項の規定により国連軍が使用できるほか、海上自衛隊により共同使用されているため、海上自衛隊の艦船も寄港している。

出典：「沖縄の米軍基地」（令和6年3月、沖縄県知事公室基地対策課）から引用

46.1.4 施設の管理及び用途

管理部隊名：米陸軍沖縄基地管理本部、在沖米海軍艦隊活動司令部

使用部隊名：在沖米海軍艦隊活動司令部（基地司令部ホワイト・ビーチ事務所、軍港湾業務部）、第7艦隊揚陸司令部第76任務部隊、米国防兵局エネルギー沖縄ホワイト・ビーチ事務所

使用主目的：港湾施設、宿舎、管理事務所、貯油施設及びミサイル・サイト

出典：「沖縄の米軍基地」（令和6年3月、沖縄県知事公室基地対策課）から引用

46.1.5 施設・区域の返還時期（見込み）、返還後の利用状況

<返還計画>

なし。

<跡地利用計画>

施設返還後の跡地利用について、うるま市においては具体的な計画は策定されていないが、平成11年3月に策定された勝連町軍用地跡地利用計画（当時：現うるま市）の中で、住宅地区の整備が適切と考えるとの方向性が出されている。

出典：「沖縄の米軍基地」（令和6年3月、沖縄県知事公室基地対策課）から引用

46.1.6 土地利用規制図

ホワイト・ビーチ地区及び周辺の土地利用規制図を図面集「土地利用規制図C」に示す。

46.2 基地内の環境汚染の可能性に関する情報

46.2.1 基地等の土地の状況

46.2.1.1 地形分類図

ホワイト・ビーチ地区及び周辺の地形分類図を図面集「地形分類図C」に示す。

46.2.1.2 表層地質図

ホワイト・ビーチ地区及び周辺の表層地質図を図面集「表層地質図C」に示す。

46.2.1.3 土壌図

ホワイト・ビーチ地区及び周辺の土壌図を図面集「土壌図C」に示す。

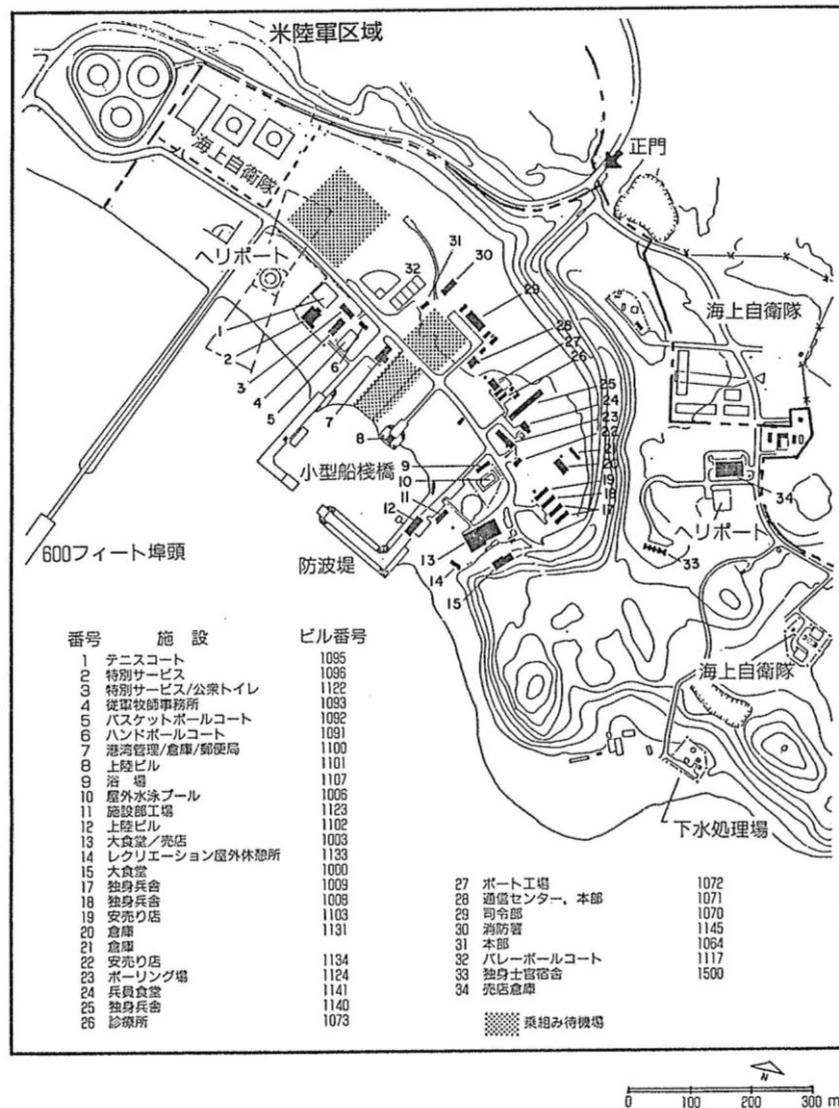
46.2.1.4 切盛土分布図

ホワイト・ビーチ地区の切盛土分布図は作成されていない。

46.2.2 基地内の施設の使用状況

46.2.2.1 施設配置図（埋設物含む）

米海軍施設技術軍太平洋部「沖縄艦隊基地／嘉手納海軍航空基地マスタープラン」（1985年9月、情報公開法にもとづく公開）を基にしたホワイト・ビーチ地区の施設配置図を図46-4に示す。



出典：「情報公開法でとらえた沖縄の米軍」（1994、梅林弘道）から引用

図46-4 ホワイト・ビーチ地区の施設配置図

46. 2. 2. 2 施設等使用履歴

昭和 16 年	旧日本軍が陸軍戦車部隊の駐屯地として使用。
昭和 20 年 4 月	軍事占領の継続として使用開始。
昭和 47 年 5 月 15 日	ホワイト・ビーチ港海軍施設、勝連半島陸軍地区、ホワイト・ビーチ貯油施設、嘉手納第 2 サイト及び西原第 2 陸軍補助施設が統合され、「ホワイト・ビーチ地区」として提供開始（使用主目的：港湾施設、宿舎、管理事務所、貯油施設及びミサイル・サイト）。ホワイト・ビーチ港海軍施設の一部約 275,000 m ² を海上自衛隊沖縄基地隊に引き継ぐ。
昭和 48 年 5 月 1 日	沖縄返還協定了解覚書 B 表に基づき、旧西原第 2 陸軍補助施設約 134,000 m ² が、陸上自衛隊那覇駐屯地勝連高射教育訓練場として引き継がれる。
昭和 50 年 4 月 4 日	工場施設として、建物約 1,200 m ² と工作物（給水設備等）を追加提供。
昭和 51 年 12 月 31 日	第 15 回安保協了承の土地約 221,000 m ² （旧嘉手納第 2 サイトメース B 基地部分）を返還。
昭和 58 年 8 月 11 日	給油施設として、工作物（給油装置）を追加提供。
昭和 62 年 2 月 5 日	貯油施設として、建物約 550 m ² と工作物（貯油槽等）を追加提供。
昭和 63 年 2 月 10 日	隊舎等として、建物約 710 m ² と工作物（下水管等）を追加提供。
平成 3 年 6 月 26 日	保安用地として、土地約 12,000 m ² を追加提供。
平成 4 年 9 月 24 日	工場として、建物約 670 m ² と工作物（門等）を追加提供。
平成 9 年 3 月 31 日	住宅用地約 150 m ² を返還。
平成 10 年 3 月 26 日	倉庫として、建物約 6,400 m ² と工作物（門等）を追加提供。
平成 10 年 3 月 31 日	町道用地約 2,000 m ² を返還。
平成 10 年 8 月 31 日	県道与那城具志川線用地約 9,000 m ² を返還。
平成 13 年 3 月 22 日	隊舎等として、建物約 2,400 m ² と工作物（水道等）を追加提供。
平成 16 年 2 月 9 日	防災施設として、工作物（護岸等）を追加提供。
平成 17 年 11 月 10 日	管理棟として、建物約 1,500 m ² と工作物（水道等）を追加提供。
平成 18 年 2 月 3 日	栈橋等として、工作物（栈橋等）を追加提供。
平成 18 年 7 月 14 日	変電室等として、建物約 90 m ² と工作物（舗床等）を追加提供。
平成 20 年 9 月 30 日	受電所等として、建物約 60 m ² と工作物（照明装置等）を追加提供。
平成 21 年 2 月 25 日	倉庫等として、建物約 750 m ² と工作物（水道等）を追加提供。
平成 26 年 4 月 30 日	住宅用地約 320 m ² を返還。
平成 26 年 11 月 5 日	海上自衛隊栈橋等の限定使用として、工作物（栈橋等）を追加提供（2-4-(b) 提供）。
平成 29 年 3 月 1 日	環境負荷負担低減対策設備として工作物（電力線路等）を追加提供。
平成 31 年 4 月 19 日	港湾施設として、土地約 100 m ² を追加提供。※ 1
令和 5 年 10 月	し尿処理施設を追加提供。※ 2

出典：※ 1 「沖縄の米軍基地」（令和 6 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）を参照

※ 2 「ホワイト・ビーチ地区艦船し尿処理施設建設事業 事後調査報告書」（令和 7 年 3 月、沖縄防衛局）

を参照

<主要建物及び工作物>

建 物：管理事務所、将校宿舎等、消防舎、修理工場、売店・食堂、倉庫等、警衛所、ポンプ室ほか

工作物：保安柵、上下水道、送油管、駐車場、着陸帯、防波堤、栈橋（A栈橋：幅 24m×長さ 850m、B栈橋：幅 24m×長さ 450m）、オイルタンク、貯槽、消火装置、護岸、自家発電設備、橋、キャンプ場、各種球技場ほか

出典：「沖縄の米軍基地」（令和 6 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）から引用

46.3 基地等の環境状況

46.3.1 自然環境（植物）

46.3.1.1 現存植生図

ホワイト・ビーチ地区及び周辺の現存植生図を図面集「現存植生図C」に示す。

46.3.1.2 植生自然度図

ホワイト・ビーチ地区及び周辺の植生自然度図を図面集「植生自然度図C」に示す。

46.3.1.3 特定植物群落

ホワイト・ビーチ地区及び周辺において、特定植物群落の該当はない。

出典：「自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（平成 12 年 3 月、環境庁自然保護局生物多様性センター）を参照

46.3.1.4 重要な種、貴重な種等

ホワイト・ビーチ地区及び周辺の重要な種、貴重な種等（植物）は確認できなかった。

出典：「～平成 27 年度版～文化財課要覧」（2015、沖縄県教育庁文化財課）を参照

46.3.2 自然環境（動物）

46.3.2.1 重要な種、貴重な種等

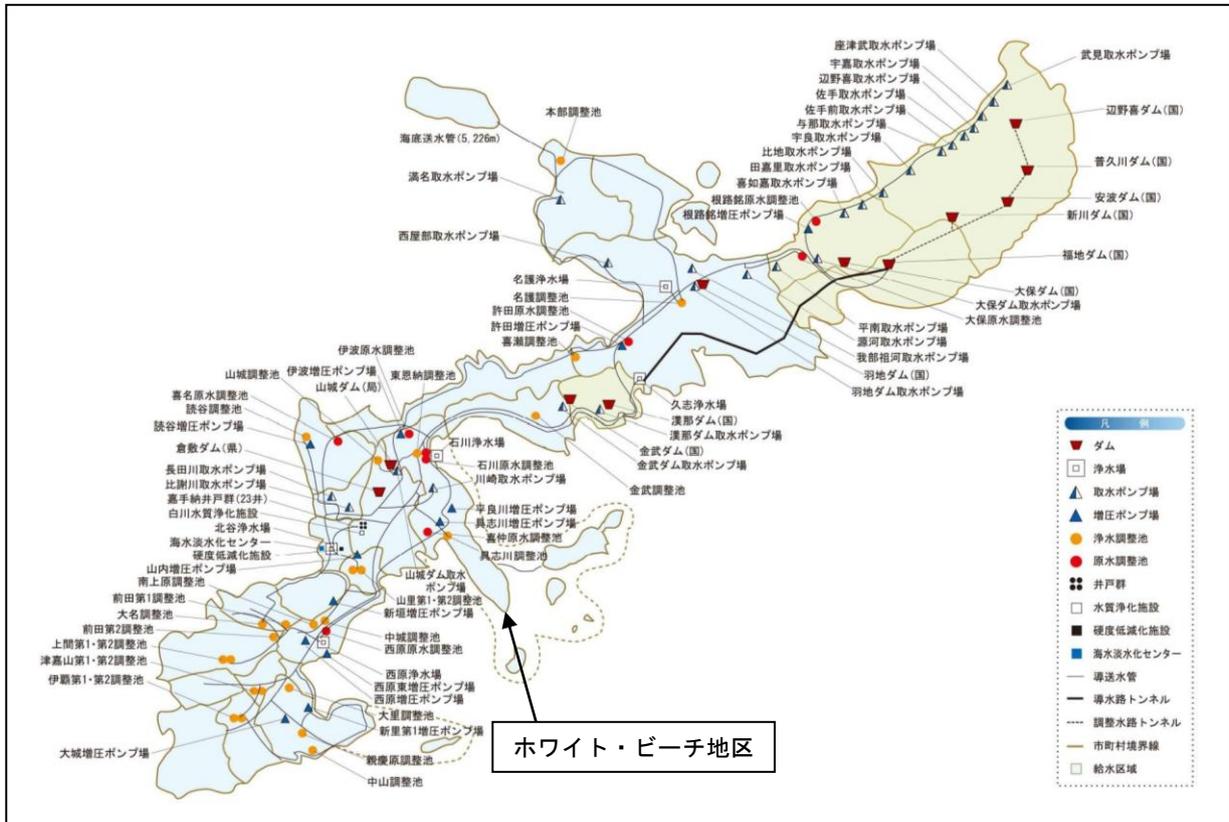
ホワイト・ビーチ地区のあるうるま市で生息が確認された又は生息が可能或いは推定される、重要な種、貴重な種等（動物）は 46 種類いる。

出典：「自然環境の保全に関する指針 [沖縄島編]」（平成 10 年 2 月、沖縄県環境保健部自然保護課）を参照

46.3.3 水利用状況

46.3.3.1 水利用状況

沖縄県企業局による、沖縄島及び周辺の水利用状況を図 46-5 に示す。

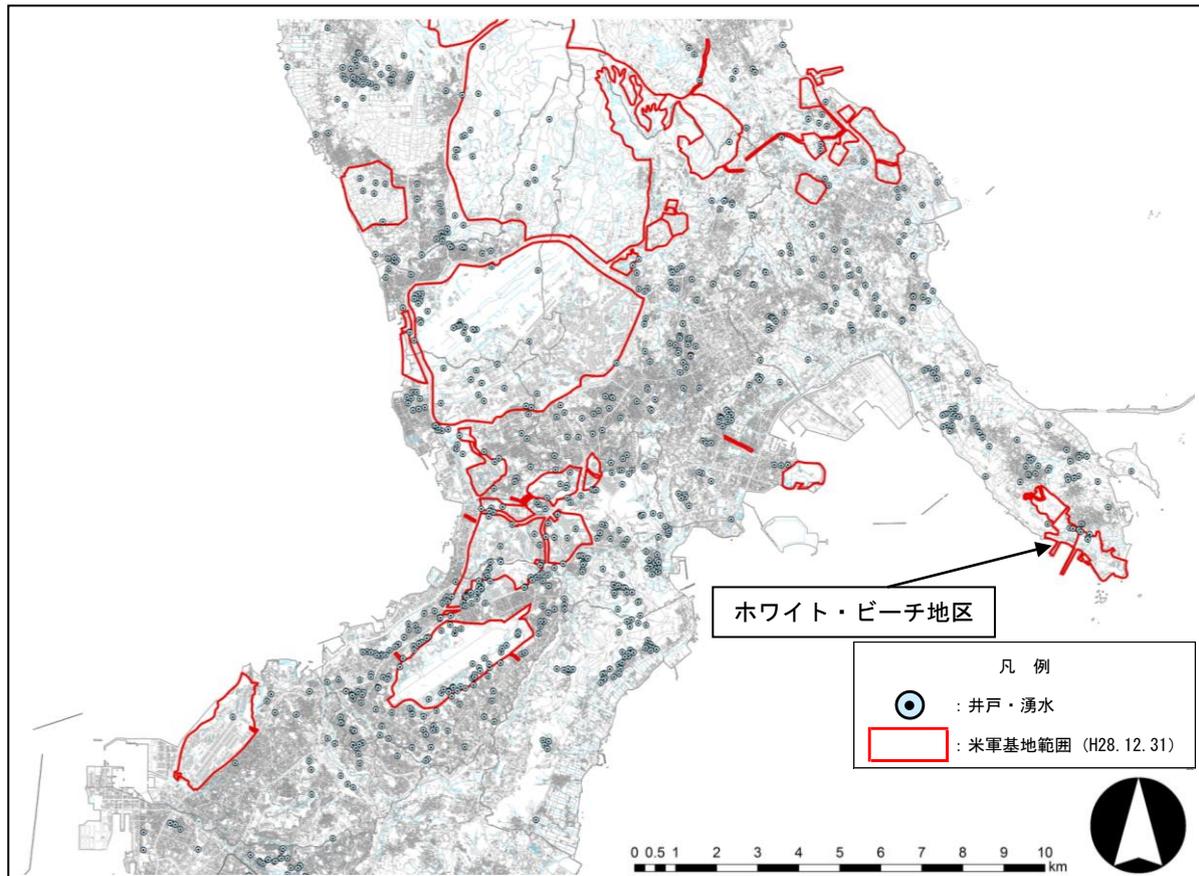


出典：「2015<平成 26 年度決算版> 環境報告書」（平成 28 年 3 月、沖縄県企業局配水管理課）を参照

図 46-5 沖縄島及び周辺の水利用状況

46.3.3.2 井戸・湧水の分布状況

ホワイト・ビーチ地区及び周辺の井戸・湧水分布状況を図 46-6 に示す。



「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。(承認番号 平成 29 情使、第 269 号)」

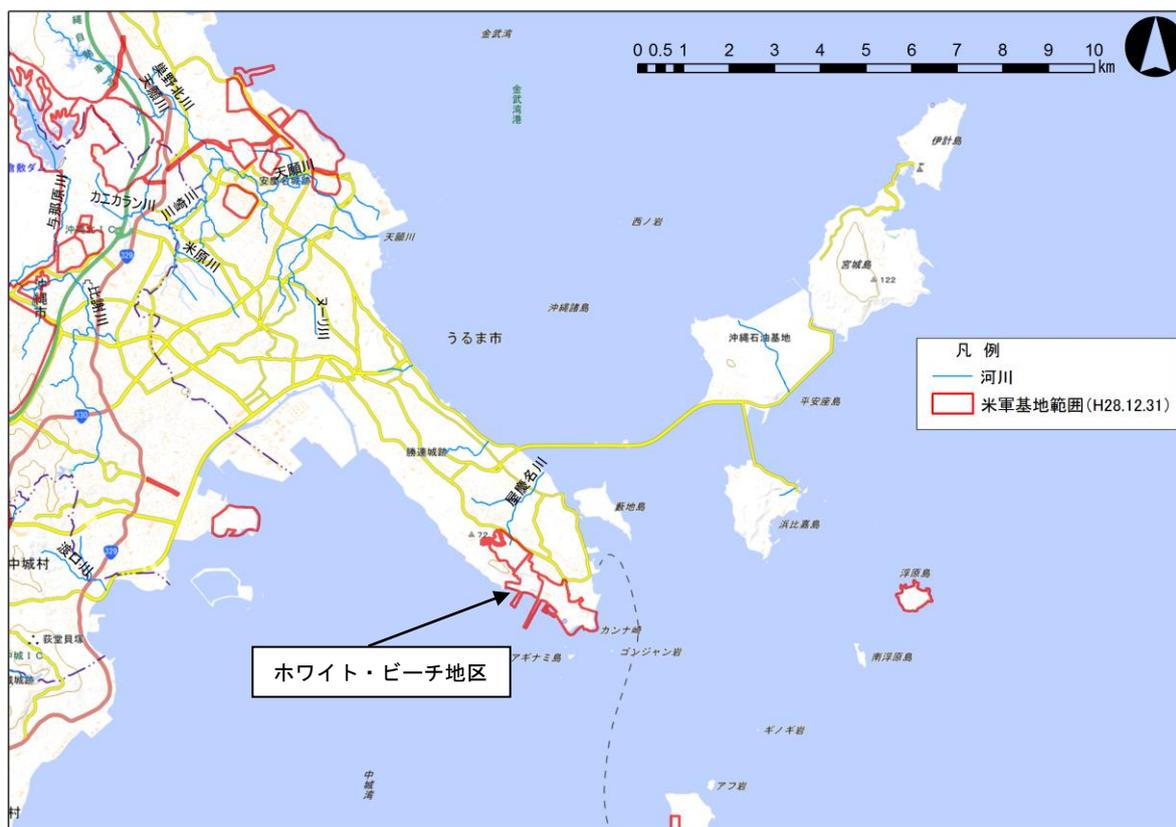
注：本図には、史書等より情報を得た井戸・湧水の位置も示されていることから、その存在や状態については、活用者が確認する必要がある。

出典：別途記載

図 46-6 ホワイト・ビーチ地区及び周辺の井戸・湧水分布状況

46.3.3.3 河川及びダムの分布状況

ホワイト・ビーチ地区及び周辺の河川、ダム分布状況を図 46-7 に示す。ホワイト・ビーチ地区及び周辺に、二級河川、準用河川、国・県管理ダムはない。



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。（承認番号 平成 29 情複、第 301 号）」
出典：「国土地理院地図（平成29年3月）」、「国土数値情報のデータ（河川情報）」、
「沖縄防衛局管内防衛施設図（米軍基地範囲）」（平成28年12月31日現在、沖縄防衛局）を参照
図 46-7 ホワイト・ビーチ地区及び周辺の河川、ダム分布状況

46.3.4 地下水の状況

46.3.4.1 地下水基盤面等高線図

ホワイト・ビーチ地区及び周辺の地下水基盤面等高線図を図面集「地下水基盤面等高線図C」に示す。

46.4 当該施設及び周辺における環境関連事故等

46.4.1 事故等の概要

ホワイト・ビーチ地区及び周辺における米軍の活動に起因する環境関連事故等の概要を表 46-1 に示す。ホワイト・ビーチ地区では、栈橋のパイプラインや停泊中の船舶からの油流出事故が確認された。

表 46-1 ホワイト・ビーチ地区及び周辺における環境関連事故等の概要

発生年月日	発生場所	概要	備考
平成 10 年 8 月 12 日	勝連町	ホワイト・ビーチ内で米海軍第 7 艦隊所属の駆逐艦(クッシング)で爆発事故が発生し、1 人死亡、1 人重体。艦内の蒸気パイプが破裂したことが原因。※1	爆発事故
平成 18 年 12 月 12 日	うるま市	ホワイト・ビーチで油漏れがあり、岸壁付近の油は回収され、海の方の油は拡散した。原因や漏出量は不明。※2	燃料漏れ
平成 19 年 7 月 26 日	うるま市	ホワイト・ビーチ海軍棧橋のパイプラインから燃料約 10 ガロン(約 37 リットル)が流出した。漏れた燃料はオイルフェンスの設置及び吸着マットにより回収した。※2	油流出
平成 20 年 2 月 4 日	うるま市	ホワイト・ビーチの陸軍棧橋に停泊中の船舶より燃料約 1 ガロン(3.8 リットル)流出した。流出した燃料は陸軍によりすべて回収された。※3	油流出
平成 21 年 4 月 7 日	うるま市	ホワイト・ビーチの陸軍棧橋に停泊中の船舶より潤滑油約 2 リットルが流出した。流出した油は海保及び海軍によりすべて回収された。※3	油流出
平成 26 年 3 月 6 日	うるま市	ホワイト・ビーチに停泊するデンバーの船体周辺のオイルフェンス内に、ディーゼル燃料の少量の油膜が確認された。※4	燃料漏れ
平成 26 年 3 月 8 日	うるま市	同年 3 月 6 日のディーゼル燃料漏れと同じ箇所に少量(約 1 ガロン)のディーゼル燃料の薄い油膜が確認された。※4	燃料漏れ
平成 26 年 5 月 5 日	うるま市	ホワイト・ビーチ海軍施設の生活排水処理施設において、大雨のため汚水沈殿タンクから汚水が排水管へ氾濫し、約 600 ガロン(2, 200L)の薄いと低濃度の生活排水が海に流出した。※4	汚水流出
平成 27 年 1 月 19 日	うるま市	海軍棧橋にて、米艦船ボノム・リシャールから約 40, 000 ガロン(151, 416L)の生活排水が直接出された。	汚水流出
平成 28 年 8 月 17 日	うるま市	米軍水陸両用船付属の上陸艇が、ホワイト・ビーチ地区において、給油中、約 7L の燃料が水域へ漏れた。※4	燃料流出
令和 5 年 12 月 11 日	うるま市	ホワイト・ビーチ地区海軍棧橋付近にて油漏れが発生した。漏出量及び外部への影響は不明。棧橋周囲にはオイルフェンスが設置され、漏出した油は回収された。※5	油漏れ

出典：※1「沖縄の米軍基地」（平成 15 年 3 月、沖縄県基地対策室）、
 ※2「沖縄の米軍基地」（平成 20 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）、
 ※3「沖縄の米軍基地」（平成 25 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）、
 ※4「沖縄の米軍基地」（平成 30 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）を参照。
 ※5 沖縄防衛局からの報告

46. 4. 2 事故等発生場所

ホワイト・ビーチ地区及び周辺における米軍の活動に起因する環境関連事故等発生場所の情報は確認できなかった。

46. 5 環境調査を実施する場合の留意事項

ホワイト・ビーチ地区において、基地内施設の使用状況及び配置等の基礎的な情報が詳細に把握できていないことから、当該施設の使用状況を踏まえて、環境調査の際には下記の事項に留意する。

- 1 貯油タンク等が存在することから、水質調査や土壌汚染調査等が必要である。
- 2 汚水処理施設については、汚泥、施設周辺の土壌及び地下水汚染調査を行う。

46.6 その他情報

沖縄県が、米国立公文書記録管理局（National Archives and Records Administration, NARA）（以下「NARA」という。）等で収集した在日米軍関係資料のうち、ホワイト・ビーチ地区及び周辺に関する環境関連情報の概要を表 46-2 に示す。

ホワイト・ビーチ地区及び周辺については、以下の資料が確認された。

表 46-2 ホワイト・ビーチ地区及び周辺に関する環境関連情報の概要（NARA 等収蔵）

年月日	場所	資料の種類	概要
1945年 5月28日 7月7日	貯油施設	文書	石油・ガソリン・航空燃料等の備蓄・輸送に関する図面。県内のタンク・ファームや飛行場の位置が記されている。
1951年 6月27日 1955年 9月1日 11月1日	—	写真	ホワイト・ビーチ地区の空中写真。
1972年 7月13日	—	文書	第3海兵師団に関する資料。第3海兵師団関連の乗船・搭載時には、ホワイト・ビーチ地区を含む5つの基地を利用すること、その際利用可能なヘリコプター着陸帯が4つの基地にあることが記されている。また、各乗船基地の見取図が掲載されている。
1969年	—	文書	1968年の年報。ホワイト・ビーチ地区で起きたヘリコプター事故について記されている。
1957年 1月23日	—	文書	沖縄の米軍関連の港に関する資料。タンカーを除く、爆発物を搭載した艦船は、中城湾（Buckner Bay）のB棧橋（White Beach）に入港することが記されている。
1960年	貯油施設	文書	POL施設に関する資料。ホワイト・ビーチ地区を含む沖縄島内の施設の写真や概要が掲載されている。
1958年	タンク、パイプライン	図	旧米国陸軍地図局（U. S. Army Map Service : AMS）作製の地図。ホワイト・ビーチ地区のタンクやパイプラインの位置、中城湾内の水上機滑走路が記されている。
1967年 5月18日	—	写真	ホワイトビーチ地区で、アメリカの商船に弾薬を積み込んでいる写真。
1967年 5月29日	—	写真	ベトナムや東南アジア向けの弾薬を積み込んでいる写真
1968年 6月13日	—	写真	ホワイトビーチで、放射能汚染の調査が実施された写真。
1969年 7月21～ 7月28日	—	文書	汚染に関する資料。艦船から廃油が流出し、漁場が汚染されたことが記されている。

1972年 7月	—	写真	ホワイトビーチ地区の施設の空中写真。
—	—	写真	Naval Mobile Construction Battalion 9の1963年活動冊子内のホワイト・ビーチの土地造成前と造成後の写真。

46.7 環境等に関する通常監視について

在沖米軍施設・区域に起因する環境汚染を防止するため、沖縄県では基地排水等の監視、事故時の調査を実施し、水質汚濁の状況把握に努めている。

ホワイト・ビーチ地区におけるこれまでの調査で、基準に適合しなかった結果の概要を表 46-3 に示す。

表 46-3 米軍基地排水調査における基準不適合結果の概要

調査地点名	調査年月日	項目	値	基準
下水処理施設	平成 19 年 1 月 16 日	pH	4.1	排水基準
	平成 21 年 8 月 4 日	大腸菌群数	2.5×10^4 個/cm ³	排水基準
	平成 23 年 10 月 18 日	大腸菌群数	6.8×10^3 個/cm ³	排水基準

◆ 一律排水基準

pH (5.8 以上 8.6 以下)、大腸菌群数 (日間平均 3,000 個/cm³、令和 6 年 12 月から大腸菌数に改正)

出典：

「環境白書」(昭和 51 年度報告～令和 5 年度報告、沖縄県)を参照